

今号のトピックス ■認定インストラクターの手記（福島の子どもたちを救いたい）

■コロナ禍臨時休園後の園児の変化 レポートより

福島県の子どもたちを救いたい！ 認定インストラクター 小杉一浩様より

2020年1月に開催されました第2回養成協議会公式インストラクター認定講習会に参加しました小杉一浩と申します。現在会津磐梯山の麓にある福島県猪苗代町立猪苗代中学校で校長として勤めております。喜多方市教育委員会在職時に田澤雄作先生の講演を聞いたこと、福島県では認定インストラクターが1名であること、福島県の子どもたちをネット被害から救ってほしいと大谷先生から背中を押して頂いたことがインストラクター取得につながりました。

さて私は現職の教員でもあるのでインストラクターとしての活動は7月に1回出前授業を行った程度です。令和2年度を持ちまして現職退職となりますので来年度より本格的に講演や出前授業を行うつもりです。7月の出前授業では知識の伝達で終わらない。クイズを取り入れ飽きさせない。話し合いを持たせ考えさせる。を考慮しながら約70分間授業させていただきました。生徒の感想では、「今回の授業のおかげで睡眠時間の大切さに気づき前まで12時まで起きていたところ10時半には寝るようになりました。」「ゲームでの成績への影響がこんなに大きいと思いませんでした。少しでも減らしたいと思えます。」と出前授業の効果を感じました。

現場の教員も含めてネット健康問題についてそれほど意識が高くないことがわかりました。特に福島県は教員の平均年齢が高いせいもありネット健康問題について指導できる教員も少ないです。できる限り啓発に努め微力ながら福島県に貢献したいと考えております。



コロナ禍臨時休園後の園児の変化(レポート)

私の勤める保育園は、4月のコロナ禍の非常事態宣言時に「登園自粛」をお願いし、多くの園児が休みとなりました。自粛前は、園児の遊びはドッチボールや氷鬼などの集団あそびが大好きでしたが、自粛期間が明け通常保育に戻ると、人気アニメの話、どのキャラクターの何のグッズを買ってもらったかの話が中心。ごっこ遊びでも以前のような家庭の再現のようなおままごとでなく、武器を見たてたものを使っての「戦いごっこ」が男女児とも盛んになりました。

自由時間の遊びでも、テレビやYouTubeなどの影響を受けた遊びがおもになり、怪我はなくて安心ですが、このままテレビなどの世界のものを中心にした遊びや生活が広まってしまうのではないかと危惧していました。

そこで園では、「やってはいけない」というのではなく、前向きな内容を引き出し、暴力にならないこと、仲間外しがおきないことに注意し見守りつつ、以前の集団遊びを取り入れ、一緒に遊ぶ楽しさを確認できるように支援しました。現在は、自粛前の状況に戻りつつありますが、園としてはさらに、園児に実体験から学ぶことを大切に、子どもの興味を引き出しながら、危険なことをしたときはしっかり叱り、ルールを確認するなどして取り組んでいます。

【本レポートは、ある研修会後に「コロナ非常事態後の子どもの異変」のタイトルでレポートしたものを抜粋し整理したものです。メディアの影響の大きさがよくわかります。】(文責：大谷)